

体育科（保健領域）学習指導案

平成30年2月23日（金）6校時
石垣市立真喜良小学校 5年2組
男子21名 女子12名 計33名
授業者 半嶺 当陽 印
共同研究 八重山地区小学校体育研究会

1 単元名 「けがの防止」

2 単元目標

○けがの防止について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

- ・毎年多くの事故が起こり、けがをする人や死亡する人が少なくないことを理解できるようにする。また、事故やけがは、人の行動の仕方とまわりの環境が関わり合って起こることを理解できるようにする。
- ・事故やけがを防止するには、危険に早く気づき、的確な判断のもとに安全に行動することが必要であることや、施設・設備など、安全な環境を整えることが必要であることを理解できるようにする。
- ・犯罪被害を防止するためには、犯罪が起こりやすい場所を避けたり、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めたりすることを理解できるようにする。
- ・けがをしたときには、けがの種類や程度などの状況を速やかに把握して処置すること、また自分でできる簡単なけがの手当の仕方を理解できるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

保健学習においては、「健康の保持増進のための実践力の育成」が協調されている。それは、心身の健康の保持増進に関する内容を理解することを通して、科学的な思考と正しい判断のもとに意思決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することが示されている。つまり保健学習では、児童が習得した知識を活用して課題の解決について考えたり、判断したりする学習活動を積極的に取り入れることとして、理解される必要がある。

「けがの防止」の目標は、

- ①事故やけがは、人の行動の仕方と周りの環境が関わり合って起こることを理解できるようにすること。
- ②事故やけがを防止するには、危険に早く気づき、的確な判断のもとに安全に行動することが必要であること。
- ③施設・設備など、安全な環境を整えることが必要であることを理解できるようにすること。

5年生の保健学習は、子ども達の生活と密接に関係している。本単元の内容は、「学校生活の事故によるけがの防止」、「交通事故や水の事故の防止」、「犯罪被害の防止」などの「交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止」及び「けがの手当」で構成されている。

「けがの防止」については、けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにする。また、「けがの手当」では、けがの種類や程度の状況をできるだけ速やかに把握して処置することや近くの大人に知らせることが必要であることを理解できるようにする。

こうした内容について、地域の公園や道路といった児童にとって身近な場所を取り上げたり、学校でのけがの発生場所や内容について保健室にある資料を用いたりすることで、より実践的に理解できるような工夫を行っていく必要がある。

(2) 児童の実態

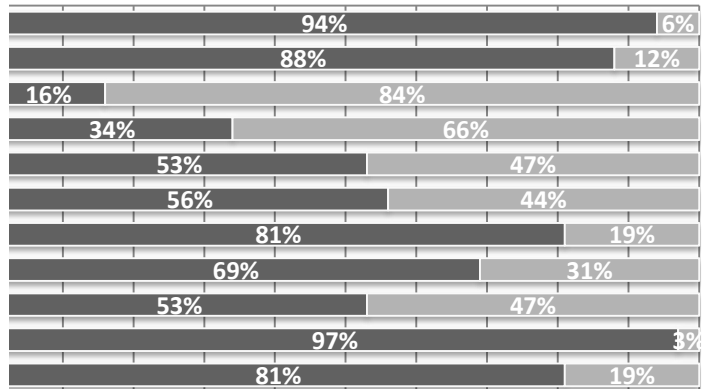
【アンケートの結果】

(5年2組 32名実施)

保健アンケート

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

- 1.学校でけがをしたことがありますか。
- 2.学校でけがをしそうになったことがありますか。
- 3.学校でけがをして病院に行ったことがありますか。
- 4.登校中にけがをしたことがありますか。
- 5.登校中にけがをしそうになったことがありますか。
- 6.交通事故にあったことがありますか。
- 7.交通事故にあいそうになったことがありますか。
- 8.水の事故を起こしそうになったことがありますか。
- 9.犯罪の被害にあいそうになったことはありますか。
- 10.自転車を持っていますか。
- 11.自転車で遠くに遊びに行ったことがありますか。



■ある ■ない

本学級の児童は、休み時間に運動場に出てサッカーをしたり、友達同士で鬼ごっこをしたりと活発な児童が多い。その延長上で、ふざけて頭をぶついたり、転んでけがをするといった軽度のけがは日常的に見られる。また、本校は目の前が大きな市道になっており、近くに宿泊施設も多いことから、レンタカーが行き交う交通量の多い場所でもある。近年では大きな事故はないが移動の手段としてほとんどの児童が自転車を利用しており、遠方に自転車で遊びに行く児童も多い。このことから、事故やけがを防止するための能力を身に付けさせる必要があるといえる。

アンケート調査によると、学校でけがをしたことがあると答えた児童は94%(30人)と多く、ほとんどの児童が学校でけがをした経験があることがわかる。また、けがをして病院に行ったことがある児童が16%(5人)おり、保健室で処置できない大きなけがをした児童もいることから、児童の自己管理が不十分であることがみとれる。

普段の学校生活の様子からも、「危険だとわかっているけど廊下を走ってしまう。」「片付けが大事だとわかっているけど、おろそかにする。」など、それらを裏付ける行動が多い。けがを防止するために必要なことを知識としてわかっているけど、実践(実生活)へと結び付けることができていないことが伺える。

これらの結果から、学校での事故やけがは身近なものであり、防止する方法を児童自身が意識する必要があることがわかる。

(3) 指導観

本時の授業を実践するにあたり、けがの原因には「環境」と「人の行動」の2つの要因が関わり合っていることを初期の段階でおさえるため、単元の指導計画を組み替えた。

児童の多くが普段から移動の手段として自転車を利用しており、また、毎年交通安全集会等で交通ルールについて学習している。したがって、事故を防ぐための知識はすでに身につけているといえる。しかし、実践的な力としてはアンケートの結果から低いことが伺える。

そこで第1時では、児童にとって日常である校外での交通環境に焦点をあて、「環境」や「人の行動」から事故やけがの原因を捉えさせる。第2時では、より自分のことと捉えさせるために、自校の事故発生マップをもとに校内でけがをする人が多いという現状を踏まえ、校外だけでなく安全な校内でもなぜ事故やけがが多いのか、その理由を考えさせる(思考・判断)ことで、実践的意欲の高まりへとつなげていく。そのためには、「安全に行動する」「正しい判断をする」をすることの重要性に気づかせる必要がある。

「安全に行動する」「正しい判断をする」などの対策を考えさせるために、下記の4つの工夫を踏まえた授業を展開する。

①児童の生活と結び付けて課題を発見させる工夫

- ・自校の事故発生マップを活用するなど、自校の事例を用いた具体的な資料を提示することで、課題意識を高める。
- ・身近な生活の中から課題を発見できるように、実際に学校で起きた事故を取り上げることで、自分の経験を想起させる。

- ②課題解決を重視した学習の工夫
 - ・授業の中で提示された課題についてグループで話し合う場面を設定することで、自力解決への意欲付けを図る。
- ③実践的意欲の高まりへと結び付ける工夫
 - ・実際に児童が経験したけがや事故を想起させ、事故やけがを防ぐことができたかを考えさせることで、自らの行動次第で防ぐことができることを再認識させ、実生活へ結び付ける。
- ④事故やけがを防止するための対策の設定
 - ・事故やけがを防止するため対策を考えさせることで、授業後も意識付けを継続できるようにする。

4 単元の評価規準 【おおむね満足できる (B)】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<p>○けがの防止について、教科書や資料などを見たり、自らの生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組んでいる。</p> <p>○けがの防止について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組んでいる。</p>	<p>○けがの防止について、教科書や資料をもとに、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>○けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。</p>	<p>○交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>○けがの手当について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>

5 学習活動に即した評価規準

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) 児童への手立て
関心・意欲・態度	学校や地域での危険な行動や場所を、自分なりに考え見つけ、その理由を具体的に考え伝えている。	学校や地域での危険な行動や場所を、自分なりに考えて見つけている。	ペア学習を通して、他の児童の視点を参考にするこで、危険な行動や場所に気づかせる。
	学校でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか、その理由を具体的に考え伝えている。	学校でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか考えようとしている。	自分の体験から、なぜけがをしてしまったかを見直すこでその原因に「環境」と「人の行動」が深く関わっていたことに気づかせる。
	校外でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか、その理由を具体的に考え伝えている。	校外でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか考えようとしている。	自分の体験から、なぜけがをしてしまったかを見直すこでその原因に「環境」と「人の行動」が深く関わっていたことに気づかせる。
	犯罪が起りやすい危険な状況について、防犯の観点から自分なりに考え、伝えている。	犯罪が起りやすい危険な状況について、自分なりに考えている。	危険な場所の観点を伝え、「環境」が犯罪防止につながることをおさえる。
思考・判断	学校での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」、「これからの行動(対策)」について自らの課題として考え、表現することができる。	学校での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」、「これからの行動(対策)」について考え、表現することができる。	グループ学習を通して、他の児童の視点を参考にするこで、危険な行動や場所、対策について考えさせる。
	校外での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」、「これからの行動(対策)」について自らの課題として考え、表現することができる。	校外での事故やけがの原因について「人の行動」と「環境」、「これからの行動(対策)」について考え、表現することができる。	グループ学習を通して、他の児童の視点を参考にするこで、危険な行動や場所、対策について考えさせる。

	犯罪が起こりやすい危険な場所にするための環境づくりと人の行動について、本時の学習に関連付けて考え、表現することができる。	犯罪が起こりやすい危険な場所にしないための環境づくりと人の行動について考え、表現することができる。	危険な場所の観点を伝え、それをなくすためにはどうすればよいかを考えさせることで、犯罪防止の「環境作り」とつなげる。
	自然災害から命を守るための行動を、状況に合わせて考え、その理由を具体的に表現することができる。	自然災害から命を守るための行動を、状況に合わせて考えることができる。	避難訓練で学習したことを想起させ、事故やけがを防止する方法に気づかせる。
知識・理解	事故やけがは「環境」と「人の行動」が関わり合っていることがわかり、「環境」と「人の行動」を具体的に書いている。	事故やけがは「環境」と「人の行動」が関わり合っていることがわかる。	自分の体験から、なぜけがをしてしまったかを見直すことでその原因に「環境」と「人の行動」が深く関わっていたことに気づかせる。
	自然災害によるけがを防止するためには、安全に行動することや、日頃の備えが必要なことをその理由を具体的にまとめている。	自然災害によるけがを防止するためには、安全に行動することや、日頃の備えが必要なことがわかる。	避難訓練で学習したことを想起させ、なぜその行動が必要なのかを考えさせることで、防止する方法に気づかせる。
	簡単なけがの手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることがわかり、その方法まで具体的にまとめている。	簡単なけがの手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることがわかる。	補助資料として教科書 p 25 を提示し、けがの手当の仕方を考えさせる。

6 指導計画

時間	学習活動・内容	【評価規準】と（評価方法）	評価の観点		
			関	思	知
第1時	○事故やけがの原因 事故やけがは、人の行動の仕方とまわりの環境が関わり合っていることを知る。（交通事故を取り上げる）	・学校や地域での危険な行動や場所を、自分なりに考えて見つけている。 【関・意・態】 （発言・ワークシート） ・事故やけがは「環境」と「人の行動」が関わり合っていることがわかる。 【知・理】 （ワークシート）	◎		○
第2時 【本時】	○学校での事故やけがの防止 学校での事故やけがは「環境」と「人の行動」に原因があることを理解し、けがの防止のためのこれからの行動（対策）について考えることができる。 ※校内に焦点をあてる。	・学校でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか考えようとしている。 【関・意・態】 （発言・ワークシート） ・学校での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」、「これからの行動（対策）」について考え、表現することができる。 【思・判】 （発言・ワークシート）	○	◎	
第3時	○校外での事故やけがの防止 校外での事故やけがは「環境」と「人の行動」に原因があることを理解し、けがの防止のためのこれからの行動（対策）について考えることができる。 ※校外に焦点をあてる。	・校外でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか考えようとしている。 【関・意・態】 （発言・ワークシート） ・校外での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」、「これからの行動（対策）」について考え、表現することができる。 【思・判】 （発言・ワークシート）	○	◎	

第4時	○ 犯罪被害の防止 犯罪被害を防止するためには、犯罪が起りやすい場所を避けたり、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めたりすることが必要であることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪が起りやすい危険な状況について、自分なりに考えている。 【関・意・態】 (発言・ワークシート) 犯罪が起りやすい危険な場所にしないための環境づくりと人の行動について考え、表現することができる。 【思・判】 (発言・ワークシート) 	◎	○	
第5時	○ 自然災害によるけがの防止 自然災害によるけがを防止するためには、安全に行動をすることや、日頃から備えをしておくことが必要であることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害から命を守るための行動を、状況に合わせて考えることができる。 【思・判】 (発言・ワークシート) 自然災害によるけがを防止するためには、安全に行動することや、日頃の備えが必要なことがわかる。 【知・理】 (ワークシート) 		◎	○
第6時	○ けがの手当 自分でできる簡単なけがの手当には、清潔にする、止血、冷やすなどの方法があることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なけがの手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることがわかる。 【知・理】 (ワークシート) 			◎
第7時	単元テスト			◎	◎

7 本時の学習活動【2/7時間】

(1) 本時のねらい

学校での事故やけがの原因が「環境」と「人の行動」にあることや事故やけがの防止のための、これからの行動(対策)について考え、まとめることができる。

(2) 授業の工夫

- ①児童の生活と結び付けて課題を発見させる工夫
- ②課題解決を重視した学習の工夫
- ③実践的意欲の高まりへと結び付ける工夫
- ④事故やけがの防止対策の設定

(3) 準備するもの

- ・事故発生マップ ・ワークシート ・掲示用カード
- ・けがの種類トップ3(グラフ) ・ホワイトボード(掲示用・話し合い用)

(4) 展開

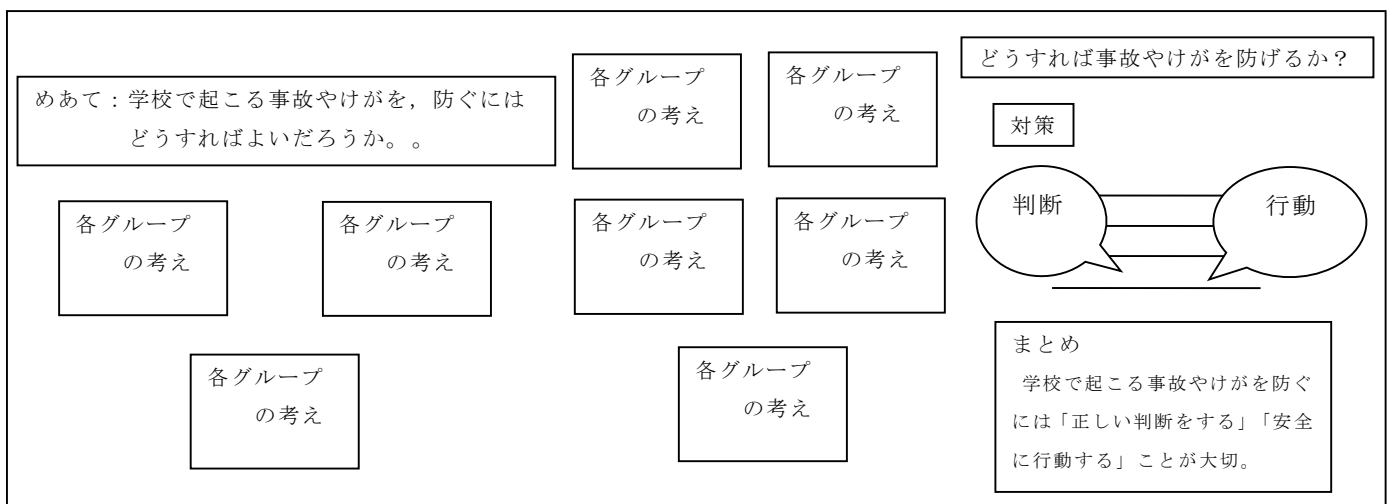
	学習内容・活動	予想される児童の反応	○教師の支援 ★評価
導入 5分	1 事故発生マップ、けがの種類トップ3(グラフ)を確認する。 ・マップ、グラフを見て事故の発生場所や校内の事故発生件数、種類を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校では、こんなにたくさん事故が起こってるんだ。 自分がけがをした場所もある。 	○校内でたくさん事故が起きていることをおさえる。
	2 事例を確認する。 ・実際に学校で起こった事例をもとに、防ぐことができたか、できなかったかを考える。(個人)	<ul style="list-style-type: none"> 【防ぐことができた】 ・時間を守れば良かった。 ・走らなければ良かった。 【できなかった】 ・予知できない。 ・意識しない。 	
	3 学習のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて：学校で起こる事故やけがを、防ぐにはどうすればよいだろうか。</div>			

展 開 30 分	<p>4 児童の事故やけがの体験から「環境」と「人の行動」を考える。 (個人→グループ学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が経験した事故やけがの状況を振り返り、「環境」「人の行動」を考えることで、色々な状況の中で事故やケガを起きていることを再確認する。 	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨が降った後の廊下。 階段。 <p>【人の行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 周りを見ないで走った。 階段から飛び降りた。 	<p>★学校でけがをしたときのことを振り返り、事故やけがを防止するにはどうすればよいか進んで考えようとしている。【関・意・態】(発言・ワークシート)</p> <p>○実際に学校で起きた事例や児童が経験した事故やけがを振り返ることで、自らの行動次第で防ぐことができることを再認識させ、実生活へ結び付ける。</p>
	<p>5 事故やけがを防止するためにはどうすればよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな対策をすればよいか、個人で考え、全体で確認する。 	<p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段から意識をしよう。 あせらない。 周りをよく見る。 落ち着いて行動する。 	<p>★学校での事故やけがの原因について「環境」と「人の行動」「これからの行動(対策)」について考え、表現することができる。【思・判】(発言・ワークシート)</p>
ま と め 10 分	<p>6 学習のまとめ(4分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめを考える。 	<p>まとめ：学校で起こる事故やけがを防ぐには、「正しい判断をする」「安全に行動する」ことが大切。</p>	
	<p>7 学習の振り返りをする。(6分)</p>		

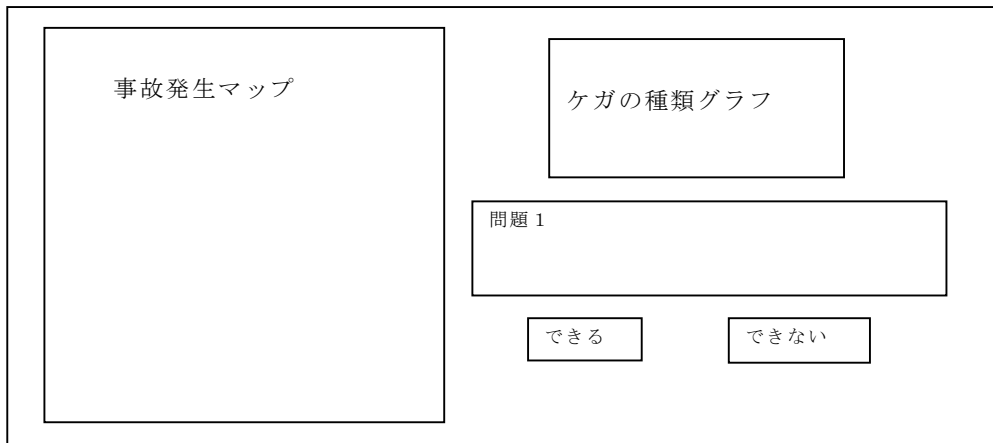
(5) 評価

学校での事故やけがの原因が「環境」と「人の行動」にあることや事故やけがの防止のための、これからの行動(対策)について考え、まとめることができた。

(6) 板書計画



ホワイトボード（掲示用）



8 資料

（参考文献）

- ・新しい保健 教師用指導書（研究編）
- ・「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き
- ・小学校学習指導要領解説 体育編

けがの予防①

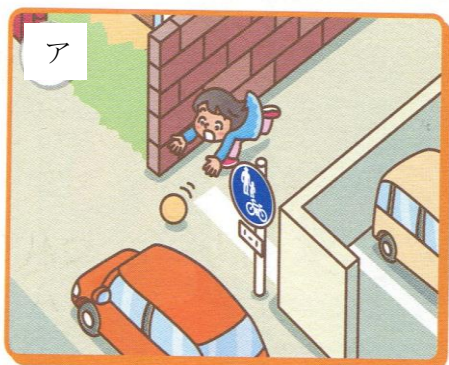
5年2組

番 名前

1 絵を見てどんな危険がかくれているか考えよう。

(環境と人の行動から考えてみる。)

(例)



環境

人の行動

環境

人の行動



環境

人の行動



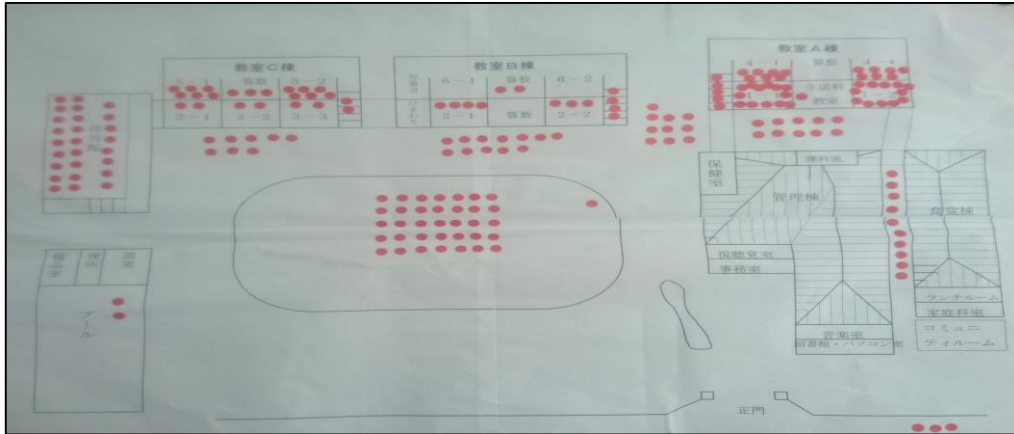
まとめ

◎振り返り

けがの予防②

5年2組

番 名前



- 1 学校でけがをしたときのこと（見たときのこと）をふり返って、書きましょう。
 どこで・なにをされていて・どんなけがをしましたか。

どこで（環境）	していたこと（人の行動）	どんなけがをした

【対策】

まとめ

振り返り

けがの予防③

5年2組

番 名前

1 校外で起こるじこやけがは防ぐことができるか？できないか？考えよう。



☆どちらかに○をつけましょう。
このけがは、防ぐことができる ()
できない ()

環境	人の行動

2 校外でけがをしたときのこと（見たときのこと）をふり返って、書きましょう。
どこで・なにをされていて・どんなけがをしましたか。

どこで	していたこと	どんなけがをした

【対策】

まとめ

振り返り

けがの予防④

5年2組

番 名前

1 2つの絵をくらべて気づいたところを書こう。



気づいたところ



気づいたところ

2 ゆうかいや犯罪にまきこまれないためにはどうすればよいか考えよう。



まとめ

--

◎振り返り

--

けがの予防⑤

5年2組

番 名前

1 絵を見て地震が起きたときの危険を考えよう。



危険だと思うところ

★対策

2 自然災害が起きたらどうすればよいか考えよう。









★日頃の備え

1

2

3

4

まとめ

◎振り返り

けがの予防⑥

5年2組

番 名前

1 けがをしたときの手当の仕方を考えよう。

①すりきず



②切り傷



③やけど



④打ぼく・つき指



まとめ

◎振り返り
